

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 実施の概要

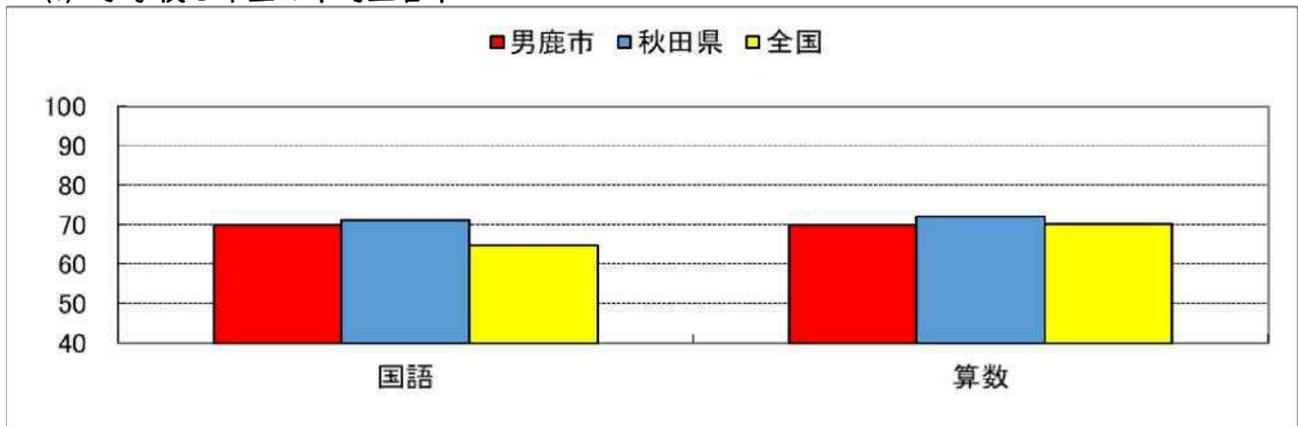
実施日：令和3年5月27日（木）

男鹿市の参加児童生徒数：小学校6年生137人、中学校3年生160人

実施教科：国語、算数・数学

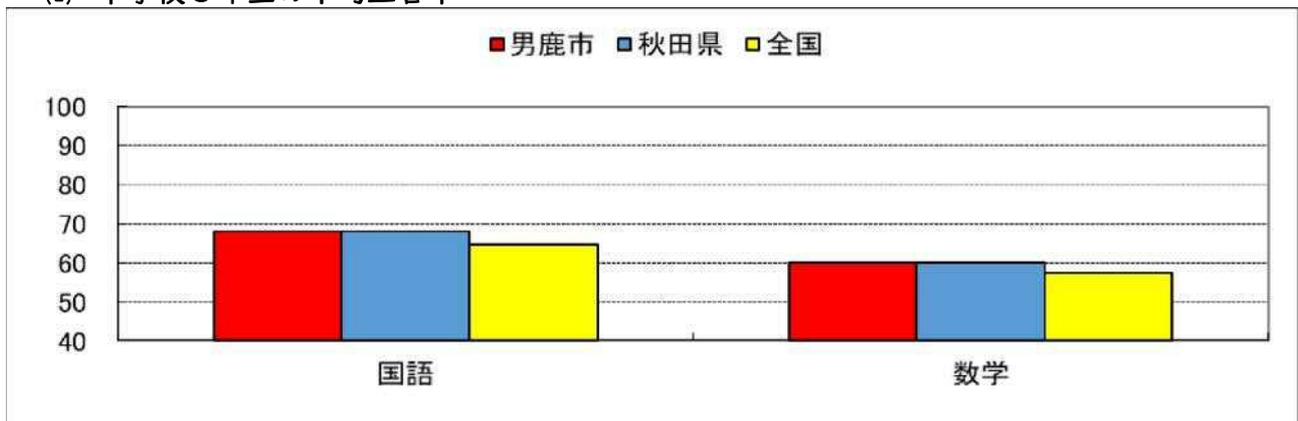
2 学力調査の結果

(1) 小学校6年生の平均正答率



- 国語では、全国の平均正答率を5ポイント程度上回っている。算数は、同程度である。
- 国語、算数ともに、県の平均正答率とは同程度である。
- 国語の「知識・技能」（基礎的・基本的な内容）に関わる領域では、全国、県、どちらの平均正答率も上回り、特に全国との比較では10ポイント程度上回っている。一方で、「思考・判断・表現」に関わる領域では、全国の正答率は上回っているものの、県との比較においてやや下回っている。従来の暗記再生型の学習から、新しい学力観である主体的・対話的で深い学びへの転換を図るために、一層の授業改善が求められる。
- 算数は「データの活用」の領域において、全国、県の平均正答率を下回っている。今後、ICT機器の効果的な活用や、他教科との関連を図った学びが必要と思われる。

(2) 中学校3年生の平均正答率



- 国語、数学ともに、全国の平均正答率を3ポイント程度上回っている。
- 国語、数学ともに、県の平均正答率と等しくなっている。
- 国語では、全般的に全国の平均正答率を上回っている。ただし、「自分の考えを書く」という問題において、少なからず無解答が見られる。数学でも、記述式問題（説明する問題）に対する無解答が多い。穴埋め式の解答だけではなく、自分の考えを文章にして書いたり、誰かに話したりする経験を、授業の中でできるだけ多く積み重ねていくことが必要である。

3 児童生徒質問紙調査の結果

【 ◎：県平均を上回る ○：県平均と同程度 ●：県平均を下回る 】

質 問 項 目		小学校6年	中学校3年
・自己肯定感 ・自己有用感	自分には、よいところがあると思いますか。	●	●
	将来の夢や目標をもっていますか。	○	○
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	○	○
自立	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。	○	●
	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	○	●
思いやり等	人が困っているときは、進んで助けていますか。	◎	●
	友達と協力するのは楽しいと思いますか。	●	●
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	○	○
学習習慣・読書習慣	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	●	●
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾等を含む。） ⇒ 1時間以上を選択した児童生徒	◎	●
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾等を含む。） ⇒ 2時間以上を選択した児童生徒	○	●
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 ⇒ 30分以上を選択した児童生徒	○	●
ICT関係	昨年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。 ⇒ 週1回以上を選択した児童生徒	◎	◎
	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	○	●
地域連携	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	○	●
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	○	●

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年度、本調査は中止されている。下表は、今年度追加された次の質問に「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合を示したものである。多くの学校が臨時休校をしていた期間中（令和2年4～5月頃）についての質問である。

質 問 項 目		小学校6年	中学校3年
関係 コロナ	勉強について不安を感じましたか。	●	●
	計画的に学習を続けることができましたか。	●	●
	規則正しい生活を送っていましたか。	◎	●

- 自己肯定感、自己有用感の醸成が、例年本市の課題となっている。活躍の場を意図的に設定すること、機を逃さずに称賛することなどについて、引き続き取り組んでいく必要がある。
- 自らの学習を振り返り、課題を見付け、解決方法を考えていく力を育てていくことにより、主体的に学ぶ力を高めていくことが求められる。
- 各校の研修の深まりにより、学習場面において、ICT機器の活用が図られてきている。
- コロナ禍により、地域連携が難しい状況にある。そのような中でも、コミュニティ・スクールの在り方を見直すなどしながら、各校が地域と共に学ぶための工夫を続けている。
- 新型コロナウイルス感染症は現在も収束の目途が立たず、今後も休校措置が取られる可能性がある。タブレット端末の各家庭への持ち帰り活用について、段階的に準備を進めているところである。